

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	IMA 周囲組織におけるリンパ管およびリンパ節の顕微鏡下組織学的所見の観察研究
	研究目的	<p>癌の浸潤経路として①直接浸潤②リンパ行性③血行性が知られており、外科手術においては根治性を高めるために②のリンパの経路を想定した範囲の郭清を行うことで再発率を下げられるとされてきた。</p> <p>郭清を行う際には血管を指標にして行うことが多く、左側の大腸癌において中樞郭清は下腸間膜動脈（IMA）を処理して郭清する。その際に IMA 根部で処理をする高位結紮と左結腸動脈（LCA）が分岐した末梢で処理をする低位結紮が郭清の方法として挙げられる。</p> <p>高位結紮では IMA 周囲の郭清がしっかり行えるが、血流が悪くなり低位結紮よりも縫合不全が増えるという報告もあり、現在もどちらの方法が推奨されるか検討されている。本研究では、IMA 根部の周囲組織を顕微鏡下で組織学的に評価することで高位結紮の必要性を検討する。</p>
	研究対象者	2015 年 1 月から 2015 年 12 月に当センター消化器外科にて大腸癌の手術治療を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2021 年 2 月 8 日 ~ 西暦 2022 年 03 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理についての責任者	当センター 塩澤 学 一研究責任者	
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科大腸
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし